

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : スタートアップの成長におけるベンチャーキャピタルの役割
授業特別協力者名 : 大下 創 氏
実施日時 : 2024年12月12日(木) 3時限
担当教員名 : 鯉淵 賢
授業科目名 : コーポレートファイナンス
履修者数 : 160名

実施結果

日本の医療機器分野のベンチャーキャピタルの草分けであるMedVenture Partners 代表取締役の大下創氏に、「スタートアップとは?」「ベンチャーキャピタルとは?」という論点について、医療機器分野を題材にお話いただいた。スタートアップとは、ベンチャーキャピタルから出資を受け、革新的な製品を開発し、M&Aによる事業売却、もしくは新規株式上場(IPO)を目指す会社のことである。医療機器分野の場合、スタートアップの成功は、エコシステム(生態系)と呼ばれる、大手医療機器メーカー、医療機器分野に専門性を持つベンチャーキャピタル、主に大学・研究機関・医療機関の研究者が創業するスタートアップが相互に役割を担うことが重要である。日本の課題として、日本から医療機器スタートアップの成功モデルを生み出すことが重要であり、そのことによって医療機器ベンチャーへの関心が高まり、より多くの医療機器スタートアップが誕生するという好循環を期待する。一方で、ベンチャーキャピタルのビジネスは、投資家から資金調達し、投資先企業の選定・審査・価値評価を経て投資を実行し、インキュベーションと呼ばれる支援・育成・経営のモニタリングの役割を担って、IPOやM&Aによって資金を回収し、投資家への分配を行うものである。大下氏は、ベンチャーキャピタルが投資家から求められるリターンは実際には非常に高く、マネジメントフィーや失敗企業への投資分をコストと考えると、投資先の4分の1が成功するという楽観的なシナリオにおいても1.1倍もの投資リターンが必須とされることなどを示した。日本の現状として、ベンチャーキャピタルは毎年増えており、資金供給量は順調に増加しているが、これまで日本にスタートアップの成功例が少なかったため、結果として投資のプロが少なく、専門性の高いベンチャーキャピタルの出現が重要であることを指摘した。その上で、大学生へ向けて、職業としてのベンチャーキャピタルは、何も存在しないところから、製品やサービスを作る楽しさを実感できる、やりがいのある仕事であることを伝えていただいた。